



おにぎり通信

2018年6月2日(土曜) 四ツ谷おにぎり仲間

こんにちは！私たちは毎週土曜日に、銀座・日比谷公園、茅場町、日本橋、東京駅周辺で生活されている方々を訪問しているボランティアグループです。

関東ももうすぐ梅雨入りです。(今年の梅雨入りは早そうなので、もしかしたらこの通信がお手元に届くころには、もう梅雨入りしているかもしれません。)

毎日雨が続きと湿度が高くなるため、体調を崩しやすくなります。また、食中毒も増える傾向があります。

皆様も体調が悪と思ったら、無理をせず、福祉行動などを利用して、病院にかかったり、体を休めるようにしてください。



※5月21日(月)福祉行動報告 2名参加されました。

Aさん(60代) 生活保護申請のため、港福祉事務所に行きました。

Bさん(70代) 足を痛めたので、港福祉事務所から病院に行きました。

次回の福祉行動：6月4日(月)

東京駅丸の内南口地下に朝8時30分までに集合してください。

車輪の前に「おにぎり通信」を持った者が待機していますので、声をおかけください。

病院に行きたい方や、体を休めたい方と一緒に福祉事務所まで、ボランティアが同行いたします。

福祉行動は原則として毎週月曜日に行います。

福祉行動は参加されるそれぞれの方が、ご自身の希望をご自身の言葉でハッキリと伝えることにより成り立ちます。

最寄の福祉事務所ほか

中央区福祉事務所・・・中央区築地 1-1-1 中央区役所4階

千代田区福祉事務所・・・千代田区九段南1-2-1 3階

【紫陽花鑑賞の歴史】

そろそろ紫陽花の咲く季節となりました。今回は紫陽花鑑賞の歴史についてお話ししたいと思います。

紫陽花は日本に古くから存在する植物で、奈良時代から記録があるにも関わらず、花としての人気はほとんどない時代が続きます。

日本において紫陽花が書物に登場したのは『万葉集』が最初です。ただし、紫陽花が詠まれた歌はわずか2首です。平安時代になっても少々詠まれる程度でした。安土桃山時代まで下ると、紫陽花を画材にした絵がようやく登場します。江戸時代になると、あじさいはしばしば画材となり、日本初の園芸書『花壇綱目』にも記載されましたが、あまり人気は出なかったようです。

当時の江戸は世界に誇れる園芸文化が根付いていました。黄色い朝顔など今では見られない品種も開発されていたようです。一方、紫陽花は植木屋には嫌がられていた存在でした。紫陽花は繁殖が容易な花で、だれでも簡単に植えて花を咲かせることができるため、商売にならなかったからです。

紫陽花の人気のはなさは、明治になっても変わらず、大正時代には西洋で改良を受けた紫陽花が日本に入ってきましたが、ここでもあまり人気は出ませんでした。

第二次世界大戦後、ようやく紫陽花にも人気が出てくるようになります。そのきっかけの1つに、観光資源として注目されたことが関係しています。

今、紫陽花の名所とされているところの多くはお寺です。紫陽花はかつて死者に手向ける花だと考えられていたため、お寺に紫陽花が植えられることがよくありあした。特に感染症が発生した地域では多く植えられました。時代が進み、感染症で亡くなる人が減った後も、紫陽花は増やすのが容易であること、見た目が美しいことから植えられ続け、やがて地域の観光資源に変わっていきました。



おにぎりを包んでいるラップや読み終わった通信は放置せずに、ゴミ箱に入れるなどして片付けにご協力をお願いいたします。

おにぎりはかならずその日のうちにお召し上がり下さい。

受け取るのは、1人1個でお願いいたします。